

SV-192S/dsd ご利用ガイド

<はじめに>

DSD 音源の再生は、パソコンにとってはとても大きな負荷をかける作業です。特に DSD フォーマットは、同じように高音質な PCM ハイレゾリューション音源 (192kHz/24bit など) の再生と比較してもより多くの演算が必要となるため、パソコンのハードウェアの選定、OS (Windows) の設定、再生ソフトウェアの設定などには注意が必要です。

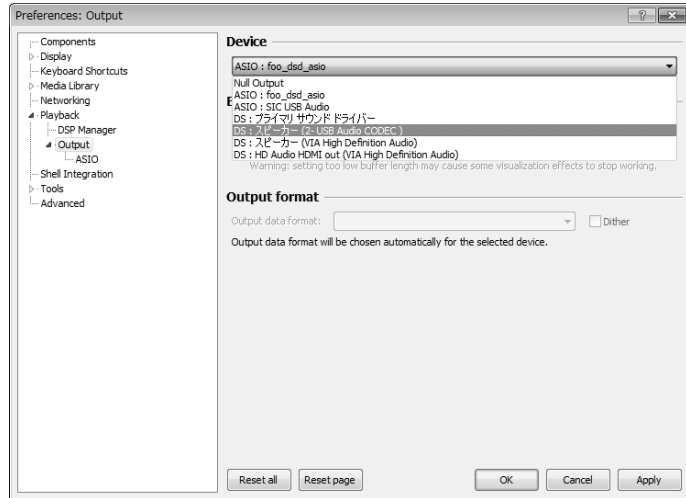
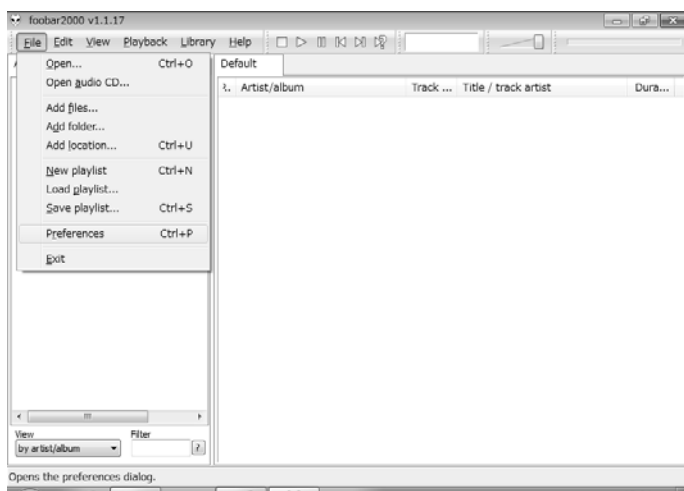
パソコンは、メールやネットサーフィン、ワープロ、音楽再生、画像処理、電話代わりにもなるなど、数え切れない様々な作業ができる大変汎用性の高い機器ですが、その実現のためにユーザーからは見えないうちでさまざまなプログラムが動作しています。例えば、表面的には一つのソフトウェア (例えば音楽再生ソフト) しか動いていないように見えていても、LAN/無線 LAN (Wi-Fi) やセキュリティソフトなどの常駐プログラムが動作していたり、省電力のために CPU やハードディスクの動作が自動で制御されていたりと、思ってもみない処理が裏で行なわれています。

パソコンに大きな負荷をかける DSD 音源の再生においては、これらのさまざまな動作がスムーズな音源再生の障壁となる可能性を含んでいます。その要因はパソコンの環境によって様々であるために完全な解決策のご提示は困難ですが、一例として、主に考えられる問題点およびそれに対する対処策を本書にまとめました。以下の Q&A が、安定した DSD 音源再生の一助となれば幸いです。

<Q&A>

Q foobar2000 で、DSD と PCM の両方を再生することは可能ですか？

A foobar2000 の「Device」設定を変えていただくことで可能です (下図)。パソコンに USB 端子が複数ある場合は、「DSD IN USB」端子と「DIGITAL IN/OUT USB」端子の両方につないで使用する事ができます。



foobar2000 のメニュー [File] - [Preferences] で設定画面を開きます。

[Playback] - [Output] の設定で、「Device」の項目を変更します。

- DSD ファイルをお聴きの場合は「ASIO : foo_dsd_asio」を選んでください。また、本体の「Source Select」ダイヤルは必ず「DSD (OPTION)」に合わせてから再生してください。
- PCM ファイルをお聴きの場合は「DS : スピーカー (* -USB Audio CODEC)」を選んでください。USB ケーブルは「DIGITAL IN/OUT USB」端子に接続し、本体の「Source Select」ダイヤルを「USB」に合わせてから再生してください。

Q DSD ファイルの再生音を、パソコン内蔵のスピーカーやヘッドホン端子などに出力できますか？

A できません。DSD の音声出力には、SV-192S/dsd をお使いください。

Q パソコンから認識されません。

A 別の USB 端子につなぎ替えてください。

パソコンに複数の USB 端子がある場合、ほかの端子につなぎ替えることで認識されることがあります。特に、USB3.0 端子で動作しない場合は USB2.0 に接続することで改善する可能性があります。また、USB ハブなどを使用している場合は、使用せずにパソコンの USB 端子への直接接続をお試しください。

Q DSD 再生中に“Visualizations”(“Spectrum”、“VU Meter”など)が表示されません。

A 現在、foobar2000 の Visualizations 表示は PCM にしか対応しておりません。DSD 再生時には、これらの表示は無効となります。

Q foobar2000 の“Equalizer”やボリューム調節が機能しません。

A DSD 再生時、これらの機能は無効となります。

Q DSD ファイルの再生開始時や停止時、曲のスキップ時などにノイズが発生します。

A このノイズは再生ソフト(foobar2000)およびコンポーネントによるもので、本機(SV-192S/dsd)や添付ドライバに起因するものではありません。将来的に、下記の対策で改善できる可能性があります。

- foobar2000、Super Audio CD Decoder(foo_input_sacd)、foo_out_asio (foo_out_asio.fb2k-component) を最新版にする。
- ASIOProxy(foo_dsd_asio)の最新版または旧版をインストールする。(最新版に不具合が含まれることもあるようです。)

上記ソフトウェアは下記サイトからダウンロードできます。

- foobar2000.....<http://www.foobar2000.org/>
- foo_input_sacd(含・ASIOProxy)http://sourceforge.net/projects/sacddecoder/files/foo_input_sacd/
- foo_out_asio.....http://www.foobar2000.org/components/view/foo_out_asio

※ ASIOProxy(ASIOProxyInstall-x.x.x.exe)のインストール後は必ずパソコンを再起動してください。

2012 年 12 月現在、最も安定しているとされる組み合わせは下記の通りです。

foobar2000 v1.1.17

foo_out_asio.fb2k-component (Version2.1.2)

foo_input_sacd v0.6.1

foo_dsd_asio (ASIOProxy) (foo_input_sacd v0.6.0.zip に同梱のもの※)

※ 当社においては差異が認められなかったため、本機の付属 CD には最新版の v0.6.1 を収録しております。

Q DSD ファイルの再生中、音飛びが発生することがあります。

A パソコンの負荷が過大になっている可能性があります。下記推奨スペックのパソコンをお使いください。

[推奨スペック]

OS Windows 7、Windows Vista SP1 以降、Windows XP SP2 以降

CPU Intel Core2 プロセッサ 1.6GHz 以上 (AMD 製はチップセットによっては正常動作しない場合があります。)

メモリ..... 1GB 以上

USB..... USB2.0

Q DSD ファイルの再生中、音飛びが発生することがあります。(続き)

A USB ケーブルの交換をお試しください。

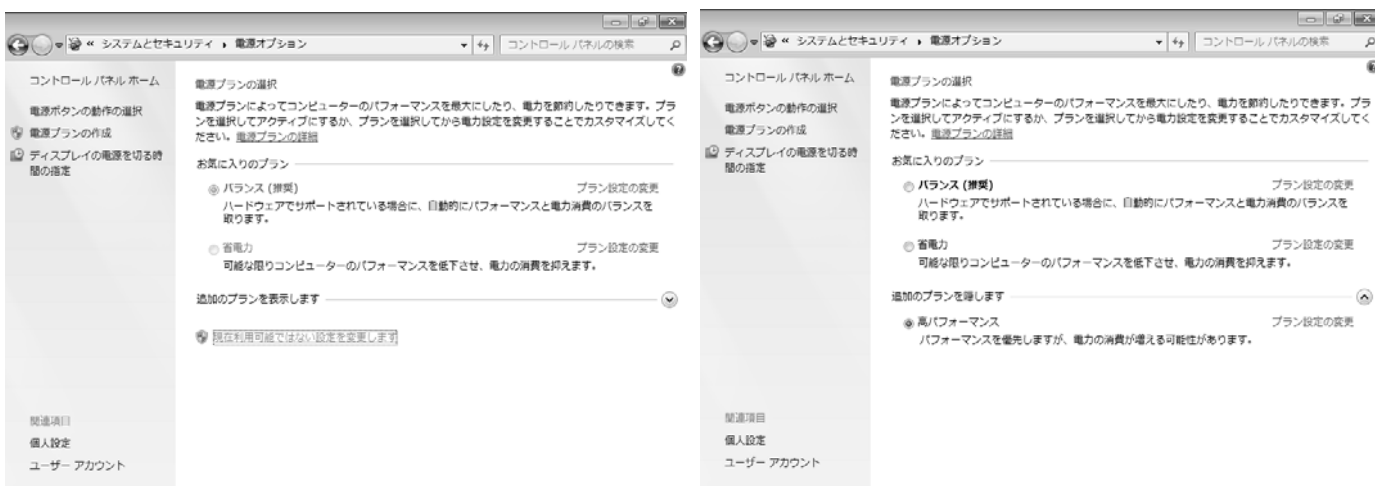
長すぎるケーブルや品質の悪いケーブルをお使いの場合、正しいデータ転送ができないことがあります。USB2.0 対応のできるだけ短いケーブルをお使いください。

A 電源プランの設定を「高パフォーマンス」(省電力よりも能力重視の電源管理モード)に変更してください。



① 「コントロールパネル」で、「システムとセキュリティ」を開く

② 「電源オプション」を選択



③ 「現在利用可能ではない設定を変更します」を選択

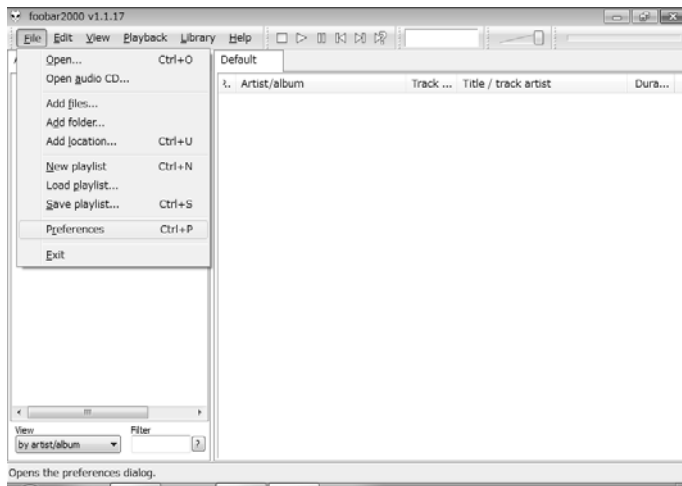
④ 「高パフォーマンス」を選択

A パソコンの各種ドライバを更新してください。

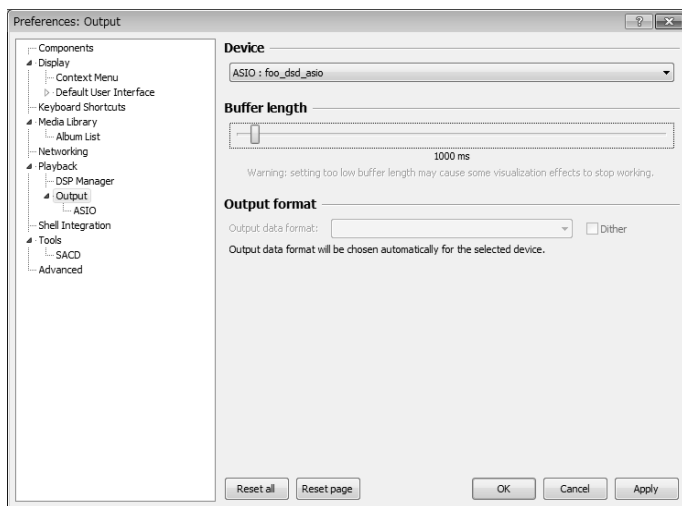
「Windows Update」で更新プログラムを入手し、インストールします。パソコンのメーカーから提供されるドライバもありますので、パソコンメーカーのサイト等もご覧下さい。

Q DSD ファイルの再生中、音飛びが発生することがあります。(続き)

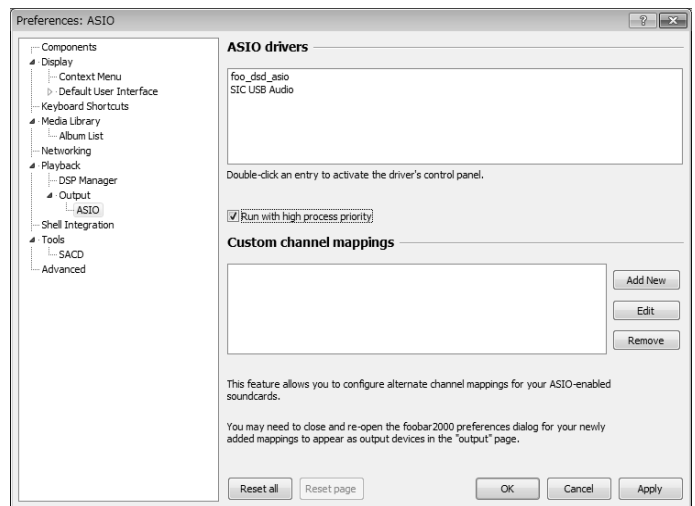
A foobar2000 の設定をご確認ください。



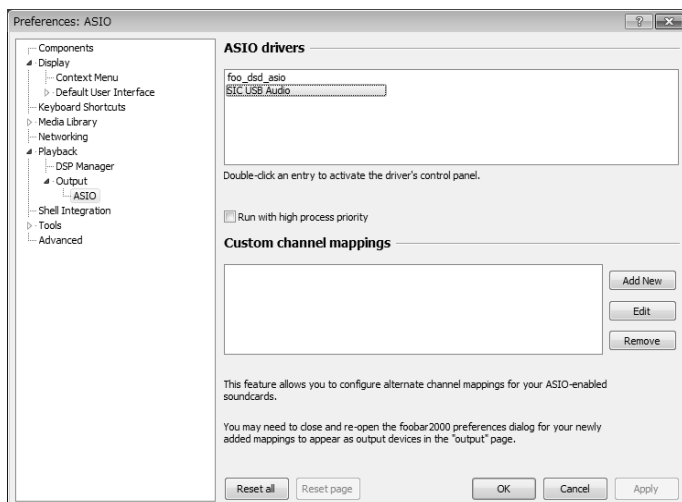
メニューから[File]—[Preference]を開く。



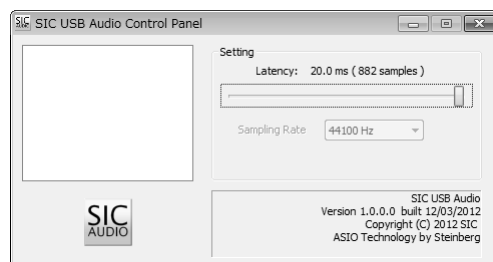
(イ)[output]の“Buffer length“(バッファ長)を大きくしてみる。



(ロ)[Output]—[ASIO]の“Run with high process priority”にチェックをいれてみる。



(ハ)[Output]—[ASIO]で「SIC USB Audio」をダブルクリックする。



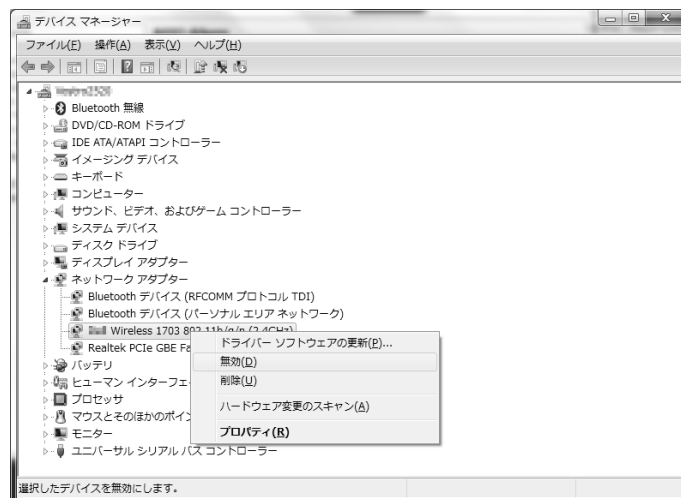
プロパティの中にある Latency を最大にしてみる。

Q DSD ファイルの再生中、音飛びが発生することがあります。(続き)

A 無線 LAN を無効にしてください。

パソコン本体に ON/OFF スイッチがある場合は OFF にしてください。また、デバイスマネージャーから「無線 LAN デバイス」を無効にしてください。

※ デバイスマネージャーの操作には十分ご注意ください。パソコンが正常に動作しなくなる恐れがあります。



A 各種常駐プログラムの停止をお試しください(危険が伴います)。

見えないところで動作しているプログラム(常駐プログラム)を停止することで、パソコンのパフォーマンスが上がる場合があります(例: アンチウイルスソフト、各種アップデートサービス、パソコン専用の各種デバイス管理ソフトやユーティリティなど)。

※ 常駐プログラムには重要な役割を果たすものも含まれています。これらを停止するとパソコンが正常に動作しなくなる恐れがありますので、停止の際にはこれらの役割をよく把握した上で行ってください。

ご注意

これらの対処方法は一例であり、必ず改善することを保証するものではありません。

2012 年 12 月時点の情報をもとにしています。